

JP3P032/W001

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-234334

(43)公開日 平成5年(1993)9月10日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
G 11 B 27/10		L 8224-5D		
15/02	3 2 8	S 8022-5D		
15/07		G 7525-5D		
23/04		7177-5D		
23/30		Z 7201-5D		

審査請求 未請求 請求項の数 1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-33784

(71)出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(22)出願日 平成4年(1992)2月21日

(72)発明者 磯田 浩

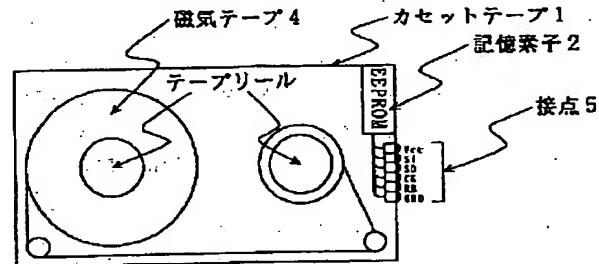
大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
ャープ株式会社内

(74)代理人 弁理士 梅田 勝

(54)【発明の名称】 磁気記憶再生装置

(57)【要約】

【構成】 磁気テープ4を収容するカセットテープ1に接点5を有する記憶素子2を内蔵せしめ、該磁気テープ4に係る記録内容の情報または磁気テープ使用状況についての情報、記録再生のタイマー予約情報等を記憶させる磁気記憶再生装置。



報、タイトル及び予約情報等を書き込み信号に変換してカセットテープ1の記憶素子2に書き込んだり、また、カセットテープ1の記憶素子2から読み出した信号を逆変換した後、内部の表示部8、通信ポート11及び映像出力12へ出力するための制御を行う。

【0016】カセットテープ1を記録再生装置3にセットするとコントロール回路7は接点5及び6を介して記憶素子2に書き込まれている記憶内容を読みだす。このときカセットテープ1の使用状態はコントロール回路7の内部情報記憶部15に記憶される。

【0017】記録再生装置3を操作し、テープへの録音・録画を実行すると、その記録開始時間及び終了時間より、記録時間を算出する。テープの残量時間は、 $(T_{rem}) = T_{max} - T_{pos}$ となる。

【0018】カセットテープ1の記憶素子2から読み出した記録情報の中に、番組予約情報が存在しており、かつ、記録再生装置3に対し、番組予約操作が行われた場合は、その番組予約情報を内部の番組予約制御部9にセットし、待機状態となる。

【0019】このとき、記録可能残時間情報と番組予約情報から記録可能時間に不足を生じる場合は、警告を発し、予約録音録画の失敗を防ぐ。

【0020】カセットテープ1の磁気テープ4に記録された信号に関する記録情報は、

- 1) 操作パネルからの入力
- 2) 通信ポート11からの入力
- 3) 映像入力13及び音声入力14から磁気テープ4に記録される信号に多重化または時分割にて符合化あるいは変調された信号からの入力にて行うことができる。

10

20

30

【0021】テープ使用状況は、記録再生装置3のテープ取り出し操作が行われたときに、コントローラ回路7より、カセットテープ1の記憶素子2に書き込まれる。

【0022】

【発明の効果】オーディオ、ビデオなどの音声及び映像の記録媒体として用いられているカセットテープに、書き換え可能な記憶素子を組み込むため、録音及び録画時に記録再生装置から、カセットテープの記憶素子に対し、装置の使用者が任意に設定した記録内容の情報、またはその録音及び録画を行う信号に多重化または時分割化して組み込まれた情報を書き込む。再生時においてその情報を必要とするときは、任意に取り出し、記録再生装置または接続された表示装置にて確認することができる。

【0023】また、一本のカセットテープに毎日または毎週の特定日に連続して同じ時刻に放送される番組を追加記録してゆく場合に、一度だけ記録再生装置からカセットテープの記憶素子に録音・録画の予約情報を書き込んでおくことで、2回目以降は、カセットテープをセットするだけで、自動的に録音・録画の予約情報が読み込まれるため、予約設定ミスによる録音・録画の失敗を防止できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の記憶素子を内蔵するカセットテープの概略構成図。

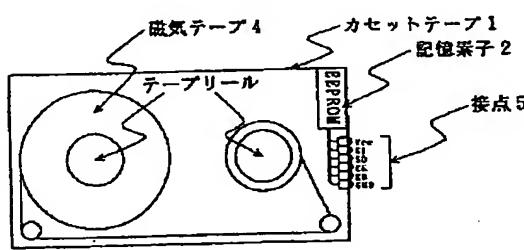
【図2】図1のカセットテープを装填するテーブレコーダの概略構成図。

【図3】従来のカセットテープを示す外観図。

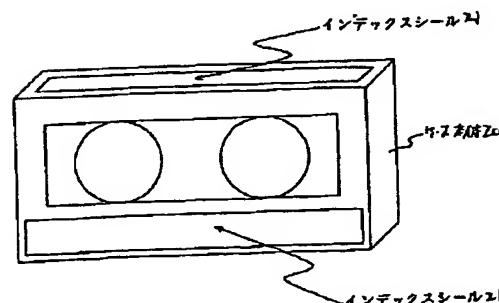
【符号の説明】

- 1 カセットテープ
- 2 記憶素子
- 3 記録再生装置
- 4 磁気テープ
- 5 接点
- 6 接点
- 7 コントロール回路

【図1】



【図3】



【図2】

